

平成28年度 野菜花き試験場の試験研究推進方向

技術開発の方向

- 本県の野菜、花き、きのこおよび畑作物の生産安定と、高品質で安全・安心な農産物を供給するための品種、技術開発を進めます。
- 温暖化、連作障害、難防除病害虫の増加など、栽培環境の変化に対応した低コスト・省力生産技術、環境にやさしい持続的な生産技術の開発を進めます。

試験研究のねらい

主要課題とその内容

I オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用

- 耐病性を有し、高品質な野菜、きのこおよび畑作物の新品種を育成し、長野県オリジナル品種のブランド力強化を図ります。

- I-1 野菜類の高品質・耐病性品種の育成 (H25~29年)
 - ・高品質で主要病害に対して耐病性を有するレタス、セルリー、アスパラガス、ジュース用トマト、夏秋イチゴを育成します。
- I-2 生育期間が短いきのこ品種の育成 (H25~29年)
- I-3 病害虫抵抗性で機械収穫に優れた良質・多収な大豆品種の開発 (H25~29年)
 - ・高蛋白質でダイズモザイクウイルスとダイズシストセンチュウに抵抗性で、莢が裂開しにくい品種を育成します。
- I-4 機能性を有し機械収穫に適する高品質新品種の育成と「信州ひすいそば」ブランドの強化 (H26~30年)
 - ・耐倒伏性を持ち、収量性に優れ、丸抜きの緑色が濃い品種を育成します。

II 低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発

- 野菜、花き、畑作物の生理生態に基づいた作型開発ならびに気象、病害虫、土壌等の環境要因の影響を考慮した安定生産技術の開発を進めます。
- 野菜、花きの生理生態の利用、環境制御技術や収穫機等の開発による低コスト・省力生産技術の開発を進めます。

- II-1 アスパラガスの需要期出荷に対応する短期株更新栽培技術の開発 (H26~28年)
 - ・出荷量拡大が求められている4~5月に生産できる伏せ込み栽培技術を開発します。
- II-2 安価な養液栽培システムによる施設果菜類の高収量・高品質栽培技術の開発 (H27~29年)
 - ・安価な養液栽培システム「ハンモックベンチ有機培地耕」を完成させ、果菜類の高収量・高品質栽培技術を開発します。
- II-3 野菜の持続的安定生産技術の確立 (H25~29年)
 - ・東信地域に適する葉菜類の持続的安定生産技術を確立します。
 - ・レタス根腐病レース1, 2抵抗性品種を選定します。
 - ・ジュース用トマトの持続的安定生産技術を開発します。
- II-4 切り花の需要に応じた作型での低コスト・省力生産技術の開発 (H25~29年)
 - ・需要期に出荷調整できる省力的な抑制栽培技術や、需要形態に応じた鮮度保持・品質管理技術を開発します。
- II-5 きのこ類の安定生産技術の開発 (H25~29年)
 - ・低コスト化へ有効な資材の探索と問題となっているキノコバエ類の発生生態解明および防除技術を開発します。
- II-6 野菜の省力化・軽作業化のための機械利用体系の確立
 - ・レタス収穫機の開発 (H28~30年)
 - ・キャベツ・タマネギ等の機械利用に適した栽培技術の開発 (H25~29年)

III 環境にやさしい農業生産技術の開発

- 土壌診断に基づく適正施肥量の解明、天敵利用による害虫防除、化学合成農薬を削減できる病害防除技術など、環境にやさしい生産技術の開発を進めます。

- III-1 野菜等の環境保全的土壌管理技術の開発 (H25~29年)
 - ・麦類すき込みによる減肥栽培や土壌物理性改善による湿害回避技術、過剰蓄積リン酸適正化技術を開発します。
- III-2 アスパラガス連作障害に対する総合対策技術の開発 (H28~30年)
 - ・アスパラガス病害の総合防除に有効な対策技術の開発に取り組みます。
- III-3 野菜・花きの環境保全型病害虫管理技術の開発 (H25~29年)
 - ・天敵寄生蜂等を利用した害虫防除技術や新型光源を利用した病害虫被害回避技術を開発します。

IV 地球温暖化対策技術の開発

- 温暖化に対応した栽培技術の開発とともに、品種育成、環境制御技術などの開発を進めます。

- IV-1 野菜における地球温暖化対策技術の開発 (H25~28年)
 - ・温暖化に対応したキャバツの早期収穫や盛夏期のセルリー等の高温障害防止技術を開発します。
- IV-2 将来的な地球温暖化に対応するための試験研究(レタス) (H26~29年)
 - ・温暖化が県内レタス産地に与える影響を検討し、発生が増加する生理障害の対策技術を検討します。
 - ・温暖化の影響を加味した地力窒素発現パターンの推定モデルを作成し、減肥技術に繋げます。
- IV-3 農業用ハウスで利用できるバイオマスボイラーの開発 (H27~30年)
 - ・既存のバイオマスボイラーの検証により、多分野との連携により新たなバイオマスボイラー開発を支援します。